

ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部臨床工学科

名前 菅原 俊継

作成日 2023年2月26日

【責任】

臨床工学を主とした教育・研究活動を行っている。主な教育活動は臨床工学に関連する科目（電気工学・電子工学・医用機器学・医用工学・臨床実習関連科目など）の担当、卒業研究・大学院研究の指導である。

【理念】 臨床工学技士という医療職は、病院の一般外来ではなかなかお目にかからず、多くの方が知っている存在とまでは言えない。そこで、臨床工学科で学んでいく第一歩として、まず臨床工学技士の役割・必要性について理解してもらいたい。その上で、臨床工学技士になるには何が必要なのかを学んでもらいたい。

臨床工学は医学だけでも工学だけでも成り立たず、両者が融合された学問である。そのつながりを理解することが臨床工学技士としての第一歩であり、初めて患者の命を救うことができる存在となる。

臨床工学技士は他の医療スタッフとともに働く、すなわちチーム医療の一員として活躍している。したがって、与えられたことだけではなく臨床工学技士という立場から何ができるのかを考え、チーム一丸となって患者の命を救うことができる能力を身に付けてもらいたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために「臨床工学技士を知る」、「基礎知識の定着」、「知識の融合」、「問題解決能力の育成」という方針で教育をしていく。

「臨床工学技士を知る」 病院見学や担当科目において、ビデオや写真等を使って臨床工学技士の業務について紹介する。また、臨床工学技士になるには国家試験に合格しなければならない。その国家試験で求められている知識を知り、身に付けてもらうために、授業中に演習として過去問題を取り上げる。実験・実習科目では、臨床工学技士が臨床現場で使用しているチェックシートを授業内容に合わせてアレンジし、導入することで現場の臨床工学技士の模擬体験を行う。

「基礎知識の定着」 知識を融合する前段階として基礎知識の定着がある。着実に知識が身につくように毎回の授業の最後に小テストを実施する。これには、学生が毎回の授業に集中してもらうこと、学生の理解度を把握することも狙っている。理解度の把握としてこのほか、日常の会話の中でヒアリングも行っている。

資格試験の基礎的な過去問題を演習として取り上げ、その基礎知識の必要性についても理解してもらう。

「知識の融合」

別々な教科として学んできた知識がどのようにつながっていくのか、各科目の中で説明する。特に毎回の授業の初めに、今回の授業内容が臨床工学の何につながっていくのかを明らかにした上で、授業を進めていく。

医用工学では3年間で学んできた工学系科目について国家試験の過去問題を教材として見直し、医学系科目とのつながりについて復習する。

「問題解決能力の育成」

グループ学習では、各学生の意見を出してもらい学生自らがグループとしての見解を示してもらう。グループ学習には、チームの一員として自らの意見を持つこと（責任を持つこと）、意見交換をすることの大切さを実感してもらうことも狙っている。

学生からの質問事項に関してはすぐに解を与えず、学生が自ら解を導き出す方法について説明していく。

卒業研究、大学院研究では、学生自ら見つけた問題や課題を解決する方法を議論し、学生自ら解を導かせる。

【成果・評価】

- ・基礎電気工学実験（基礎科目）の授業評価アンケートで電気工学へ興味を持ったという学生が増加した。
- ・知識の融合が必要な医用機器学や医用工学は、授業評価アンケートで評価している。また、本学科教員との情報交換により、知識の融合について情報共有をしている。
- ・国家試験の合格率が全国平均以上。

【目標】

- ・次年度も国家試験の合格率を全国平均以上にする。
- ・一度も達成できていない国家試験合格率 100%を目指す。
- ・リーダーを担う臨床工学技士の育成（大学院）。